

2022年3月のでがたんは少人数・申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回4月のでがたんは4月9日(土)で、テーマは「キジも鳴かば見られまい」です。ぜひご参加ください。4月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は4月3日(日)です。

3月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場
- 観察日時と天気：2022年3月12日(土) 10:00~11:00 晴れ
- 参加人数：5名(大人5名)
- 市民スタッフ：4名(伴野茂樹、伊東茂子、石原直子、小泉伸夫)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：コガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ、アカガシラサギ*/クイナ科：バン、オオバン/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ/シギ科：タシギ(採食の痕跡)/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声)/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ(声)、カシラダカ(声)、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【魚】

ゲンゴウロウブナ、ギンブナ(ともに死体のみ)

【甲殻類】

スジエビ(カワセミが捕食)

【昆虫】

チョウ目：キタテハ、モンシロチョウ、キタキチョウ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ビワコカタカイガラモドキ、アブラムシのなかま/カマキリ目：コカマキリ(卵のう)、チョウセンカマキリ(卵のう)/コウチュウ目：コガタルリハムシ、ナナホシテントウ

【クモ】

ハシリグモのなかま

【花・実】

草の花 キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ/オオバコ科：オオイヌノフグリ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ヒメジソ/アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ/ハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ/ナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ、ノミノツヅリ

木の花 バラ科：ウメ、カワツザクラ、オカメザクラ/ツバキ科：サザンカ

実 バラ科：ノイバラ/モクセイ科：トウネズミモチ/ウコギ科：ヤツデ

3月の観察アルバム



今回のテーマは「てがたんしりとり」でした。沼沿いで見つけた生きものたちの名前を使ってしりとりを行いました。普段あまり気にしていない生きものも含めて、視野を広げて自然観察を楽しむことができました。



今月の案内人
小田谷嘉弥・伴野茂樹



①カラスノエンドウについていたアブラムシのなかま



②遊歩道沿いに生えてきたツクシ（スギナ）



③種を付けていたセイヨウタンポポ



④フナ類の死体を食べていたハシボソガラス



歩いたルートと観察した生き物



⑤他の鳥のさえずりをまねていたモズの雄



⑥ヨシの中の昆虫を食べていたオオジュリン



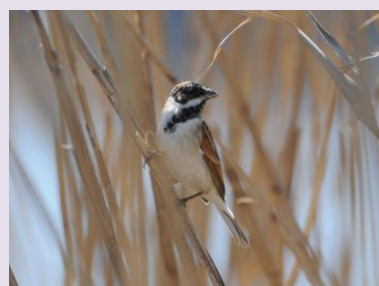
⑦ホバリングして魚を狙っていたミサゴ



⑧遊歩道沿いに生育していたノビル

今月の鳥 オオジュリン（スズメ目ホオジロ科）

オオジュリンは手賀沼周辺では冬鳥で、10月の終わりから4月の初めまで見られます。水辺の丈の高い草地を好む小鳥で、ヨシの茎の中に潜んでいるカイガラムシの仲間などの昆虫や、植物の種子を主な餌としています。オオジュリンの冬羽は雌雄ともに全身が地味な褐色ですが、夏羽では雄は頭が黒くなります。この変化は、羽毛が生え換わるのではなく、先端の褐色の部分の擦り切れて、根元側の黒い部分が露出することによるものです。そのため、2月ごろから徐々に頭が黒っぽくなっていく様子を見ることができます。オオジュリンは雄のほうが少し早く繁殖地への渡りを始めるので、頭が真っ黒になった雄を見られるチャンスは3月の短い期間に限られます。「チュイー」という鳴き声をたよりに探してみましょう。



頭が黒くなったオオジュリンの雄